

第14回検討会でのご意見



阿賀野川河川事務所
令和6年12月2日



第14回 阿賀野川自然再生モニタリング検討会 議事概要

【開催概要】

開催日時： 令和5年11月30日(木) 13:30~17:00

開催場所： 阿賀野川河川事務所 2階会議室

- 議事次第： 1. 現地視察
2. 開会
3. 挨拶
4. 出席者の紹介
5. 議事
6. 閉会

【議事】

(1) 規約の改定

主な意見 特になし。

(2) 第13回検討会でのご意見

主な意見 特になし。

(3) 中期的対応箇所のモニタリング状況について

(A委員)

- 沢海地区で浚渫予定のワンドが水位低下時にどのような環境になっているか把握できているだろうか。水位低下時に完全に干出するようなワンドでは、機能の継続が期待できない。

(事務局)

- 水位低下時もワンドの水面が確認されていることから、干出することなく存続しているものと考えている。ワンドの出口の形状(湧水時にも連結させた方が良いか)や留意すべき植生についてご意見をいただきたい。

(A委員)

- ヤナギについては種子が散布される時期に流れてしまうような地形条件を考慮すれば問題にならないと考える。エコトーンが維持され抽水植物が生育できるような環境が魚類、鳥類にとっても好ましいことから、浚渫の程度に留意し、水域と陸域を完全に分離した水路のような形状にならないように考慮する必要がある。

(A委員)

- 樹木の伐採についても十分に検討する必要がある、鳥類の保全の観点からすべて伐採する必要があるのか、大きな問題とならない樹林は残すような方向で鳥類の専門家の意見を聞きながら検討して欲しい。

(事務局)

- 阿賀野川全体で流下能力が落ちてきている状況がある。樹木伐採については、専門家に相談しながら治水と環境を両立させて検討していきたい。

(B委員)

- 早出川について、植生が繁茂してきたのがいつくらいか、過去にそれらがフラッシュされる条件があったのか、教えて欲しい。

(事務局)

- 早出川の捷水路が整備されたH5年から少しずつ土砂が堆積してきており、H23年の豪雨がかったものの、H25年には樹林化が進行している状況が把握できている。

(B委員)

- 近年でワンド地形が急速に消失してきている現状を踏まえ、H23年の新潟豪雨以降で地形と植生がどのように変化してきたかを丁寧にみてやるのが重要である。それがある程度把握できればワンドが維持される条件(勾配が緩やか、伏流水、細砂)や消失する条件がみえてくるのではないかな。

(事務局)

- 地形と植生の変化は、これまでそういった観点で整理していなかったため、地形の条件、植生の条件、洪水の条件について今後は今あるデータの中で対応していきたい。

(A委員)

- ワンドは環境が常に変化し続けることから、その時点の環境状況を適切に把握するためモニタリングが重要である。

(C委員)

- これから実施するモニタリング調査において、冬の鳥類は群れる習性があるのでハクチョウ以外の水鳥にも留意して調査すると良い。また、水鳥が実際にどのような環境を利用しているのか十分に把握し、それを工事に反映させていくと良い。さらには、自然の営力でそれが維持できると良い。

(B委員)

- モニタリング調査については洪水後の地形の変化だけを把握するのではなく、洪水中にどのように動いているか把握することが必要である。近年は技術も進展しているので、来年度以降、是非ご検討いただきたい。

(事務局)

- ワンドの発生する条件や消失する条件についてのモニタリングについて検討したい。また、リアルタイムでの情報収集も可能であれば実施を検討したい。

(4) 短期的対応箇所のモニタリング結果(水ヶ曾根地区、小阿賀樋門)

(B委員)

- 水ヶ曾根地区の人工水路については、本来河川が持っている滞筋の川幅と水深の比率を適用してやることで安定する断面になることがわかってきているので、今後の参考にすると良い。また、洪水時の平面的な流れ(流速)の状況を把握することでみえてくることもあるので、取り組んでみても良いかと思う。

(事務局)

- 3つある水路の流路を絞ってみてモニタリングを行い、それから評価をしていきたいと考えている。現段階で思った通りにいけないことは否めないが、対策を検討しながら進めていきたい。

(5) 今後の予定

主な意見 特になし。

以上